

平成22年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	平谷村の地域特性(気象・地形)を活かした農業づくり研修所の設置
事業主体 (連絡先)	農事組合法人 平谷村農業生産組合 長野県下伊那郡平谷村1057番地 電話 0265-48-2550
事業区分	(6) 産業振興及び雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ハード事業
総事業費	3,800千円 (うち支援金: 2,000千円)

事業内容

(1)平谷村の地域特性(気象・地形)を活かした農業づくり研修所の設置事業

- ・平谷村における新規就農者のトレーニングセンターとして活用するハウスを設置しました。
- ・ハウスの部材は、価格高騰の既存の鉄パイプではなく、間伐材を活用した2×4材を使用しました。2×4材を使うことでコストの低減を図っています。



【ビニールハウス設置状況】

(2)いちご苗の栽培事業

- ・平谷村の気象条件を活かして、無病で花芽分化確認済みの健全な苗を生産しました。
- ・栽培方法も、輸送コスト低減と作業の省力化が図れる、新しい形態の苗としました。

自己評価(事業実施率)【A】

事業効果

- ①平谷村農業生産法人の事業を知った就農希望者からの問合せが5件ありました。事業方針の説明等を行い、H23年度から研修生として3名を受け入れることになりました。
- ②組合で栽培し販売した新しい形態のいちご苗は、1回当たり従来の1.5倍の数量が運べました。購入農家での作業効率も、いちごの生産に影響を与えず、これまでと同等または省力化が図られました。
- ③ハウスの骨材を従来の鉄パイプから木材に変えたことにより、地域住民の関心が高まり、組合のPRにもなりました。

【目標・ねらい】

- 平谷村ならではの農業形態を模索する
- 平谷村の定住人口を確保するため、研修生を確保する
- 付加価値のあるいちご苗を生産販売する
- 組合の経営安定を図る

自己評価(目標達成率)【B】

今後の取り組み

- ①3月11日に発生した東日本大震災の影響で手配が間に合わなかったハウス用ビニールを至急確保して、いちご苗の生産を始めます。
- ②今回設置した木骨ハウスを活用して、3名の新規研修生に、苗作りの技術を習得してもらい、1経営体あたり10万本、将来的には村全体で10経営体100万本の苗生産を目指します。
- ③100万本の苗販売を可能にするため、木骨ハウスもPRして、販路の拡大を目指します。
- ④今年度に出荷した苗の形態に、さらに改良を加えて、コストの削減を目指します。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。